2013年（平成25年）10月7日号
NO.2601　（毎週月曜日発行）
株式会社　週刊住宅新聞社
本社　〒160-0022　東京都新宿区新宿1-9-4　中公ビル
TEL 03(5383)5810　FAX 03(5383)5815　郵便振替口座 00120-6-83424
発行人　長尾　治　昭和35年5月10日　第三種郵便物認可
http://www.shukan-jutaku.com/

週刊住宅

スタートした。すでに20社近くの海外企業が入居し、年間500件以上のビジネスマッチングを行う。今春には新たに海外の有力ITベンチャーなど4社が入居した。

16年竣工予定の大手町連鎖型都市再生プロジェクト第3弾には海外企業のビジネス開発を支援し、丸の内への企業誘致も手掛ける「海外企業等支援センター（仮称）」を設置する。

昨年竣工した大手町フィナンシャルシティには外国人医療を手掛ける聖路加国際病院の分院が入居した。

今後は外国人ワーカーの中長期滞在拠点となるサービスアパートメント120室や、外国人をターゲットにする高級和風旅館といった、ビジネス街としての表情が際立っていた丸の内に従来なかった機能を追加して、街丸ごとのグローバル化を進める考えだ。

ヒルズ」ブランドの評価定着

は、BCPに敏感な海外企業のオフィスニーズを熟知していたため導入した。200を超す国内外のアーティストの行為ショップ・レストランをはじめ、世界の美術館と提携する森美術館やメンバーシップクラブなどをヒルズに導入したのも、職住遊が近接した外国人のライフスタイルに対応したからだ。結果としてヒルズ入居企業の7割は外資系が占め、大震災後はさらに海外企業の評価が高まった。

同社が供給する約2500戸のマンションも入居者の4割を外国人が占める。外国人の生活習慣を踏まえた間取りや仕様、デザインはもちろん、バイリンガル対応のフロントサービスや、日本人にはなじみの薄い細かな生活支援サービスの提供など、目には見えにくい国際的な生活環境が同エリアのグローバルインフラとして力を発揮する。

来年竣工する虎ノ門ヒルズには国際会議に対応した施設や国際ホテルが入居し、グローバルインフラが厚みを増す。

週刊住宅プレミアライフ倶楽部が発足

個人投資家向け会員サイト

週刊住宅新聞社は10月1日、個人投資家や富裕層を対象とした会員制支援事業「週刊住宅プレミアライフ倶楽部」を立ち上げました。7日に専門サイトをオープン、不動産投資や資産運用をテーマにした有益な情報を発信するほか、弁護士、税理士、不動産鑑定士といった専門家による無料の相続相談サービス「相続の窓口」を提供します。

専門サイトでは、不動産投資に関連した商品・サービス、各種投資データなどの情報に加え、将来的には旅行や趣味といった生活全般に関連するライフスタイル情報を掲載します。

「相続の窓口」は、「複数の権利関係がある不動産の相続」「相続トラブルに巻き込まれた場合の解消法」など多様な悩みに対応します（2回目以降の相談は有料となります）。

このほか、当社が主催する国内外の不動産投資セミナーの案内、新刊本の会員割引などを行います。問い合わせは「週刊住宅プレミアライフ倶楽部」担当（電話03・5363・5140）まで。

「週刊住宅プレミアライフ倶楽部」URL=http://www.shukan-jutaku.com/splc

◆受注を増やせる訳がない◆たまに「受注好調の理由？　それは増税駆け込みだよ。下期？　そりゃ落ちるにきまってる。2割ぐらい落ちるかな」という大手トップの声を聞くと安心する。生身の人間と話しているのだと◆増税に加え施工賃上昇など業界を取り巻く環境は厳しい。マンションの新規供給はしばらく減るのではないかという声もある。ただ人の心配をする余裕はない。昼夕とも外食は一切やめて100％自炊にしても生活は厳しい。貯金通帳を見て出るのはため息ばかりだ。